



興部高校 C・S 通信

令和4年2月25日発行 第9号

第3回学校運営協議会報告

令和3年度第3回学校運営協議会を2月16日に開催しました。会長挨拶、校長挨拶後、事務局が今年度の活動状況の報告をし、興部高校ビジョン、スクール・ポリシーについての説明がなされ、了承されました。

次に3年連続、入学予定者20名割れ、地元中学校からの入学者減少による学校存続の危機意識を共有した後、「選ばれる学校になるためには、どうしたらよいか」を念頭に、次年度活動計画について活発に意見が交わされました。



【次年度活動計画】

(1) ICT機器を活用した授業

- ・学力向上対策

(スタディサプリを使用した学び直しから検定対策、進学対応 ※コロナ禍の在宅学習にも対応予定)

- ・Google クラウドの機能を利用したオンライン授業
- ・タブレットを使用した授業力向上

(2) 公営塾（スクール・サポートスタッフ）の導入及び活用方法

- ・放課後に学びの場を設け、生徒の学力向上を図る。 ・公営塾スタッフによる授業サポート
- ・地域コーディネーターにあて、学校と地域を結びつける活動の充実を図る。

(3) 総合的な探究の時間の工夫

- ・生徒の資質・能力向上を目的とした探究活動
- ・商品開発を通し、生徒が専門知識をもった人材と関わることで、生徒の資質・能力の向上を図る。
- ・地元企業の活性化（地域創生）も図る。

(4) 特別支援教育の充実

- ・教職員の特別支援に対する技量向上
- ・特別教育支援員、スクールカウンセラー、パートナーティーチャーの活用

(5) 部活動活性化

- ・中学校との合同練習や地元少年団、社会人チームへの高校生加入

(6) 生徒心得の改正

- ・女子生徒のスラックスを承認 ・生徒心得の改正手続きの明確化及びHPへの掲載

【主な意見（順不同）】

- ・興部町は海、大地とあり、その強みを生かしたストーリーをつくる取組を求める。
- ・商品開発がふるさと納税の返礼品になると、町の経済にとってインパクトになる。
- ・生徒の頭が柔らかい発想を生かした商品を作って欲しい。
- ・地元の特産品を知らない生徒が増えている。だからこそ商品開発を通して学ぶことが重要である。
- ・存続条件の20名にとらわれるのではなく、定員（40名）の入学生を目指すべきである。
- ・地元にとどまってもじり貧である。もっと外から募集できるようにするべきである。
- ・地元の中学生在来しないのは、部活動の少なさ、学力への不安、人数が少ないことがあげられる。
- ・興部高校に入った生徒をどう育てるかが大切である。